

多様な性のあり方を認め合おう

～「LGBTQ+」を誰もが理解できる社会へ～

一人ひとりが輝ける社会をつくるために、性別や性的指向、性自認などに関わらず、いろいろな性のあり方を尊重して、誰もが認め合うことが大切です。

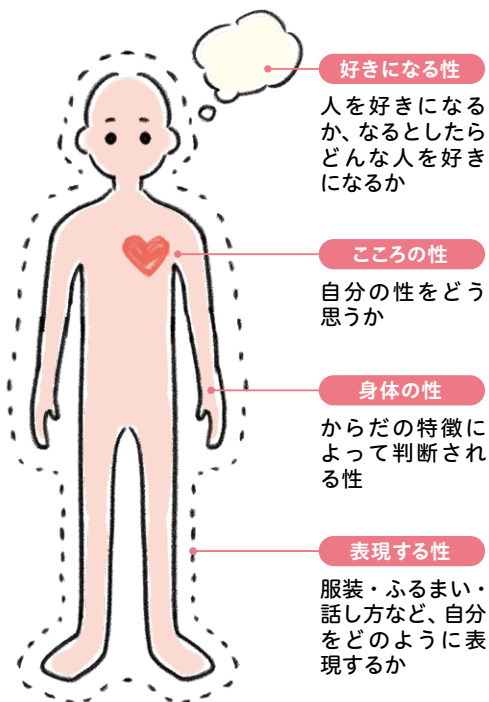
性 一人ひとり違う 性的指向と性自認があることを知ろう

どんな人もみんな違うSOGI(ソジ)を持っています。SOGIとは、「性的指向(Sexual Orientation)」と「性自認(Gender Identity)」の二つの要素のこと。

性的指向は、人を好きになるか・ならないか、なるとしたらどんな人を好きになるかのことです。異性に向く人、同性に向く人、両方に向く人、さらに性的指向がない人もいます。

性自認は、本人が自覚している性のことです。男性、女性、無性(どちらにも当てはまらない)だけでなく、男女の中間地点、性自認が日々揺れ動く、そもそも自分の性が分からない人もいます。

性のあり方には身体的な特徴で判断される性だけでなく、さまざまな要素があり、単純に男性と女性では分けられません。一人ひとりが多様な性のグラデーションを生きているのです。



LGBTQ+とは?



レズビアン
Lesbian
女性を好きになる女性



ゲイ
Gay
男性を好きになる男性



バイセクシュアル
Bisexual
好きになる人が同性の場合も異性の場合もある人



トランスジェンダー
Transgender
生まれた時の身体の性と自認する性が異なる人



クエスチョニング
Questioning
自分の性のあり方が分からない人、決めたくない人



プラス
Plus
LGBTQの5つのカテゴリに当てはまらない、さまざまなセクシュアリティの人

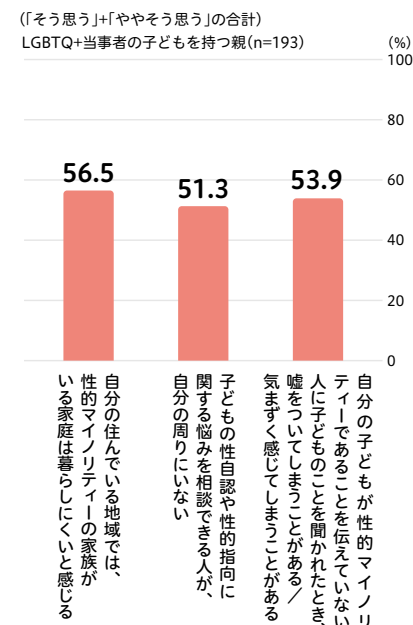
日本では成人のLGBTQ+当事者は約10人に1人

「自分の子どもが当事者」親のとまどいと悩み

電通グループが20～59歳を対象に実施した「LGBTQ+調査2023」では、「LGBTQ+当事者層」(異性愛者であり、生まれた時に割り当てられた性と性自認が一致する回答者以外)の割合は9.7%。つまり約10人に1人は自分の性的指向や性自認が性的マイノリティだと認識しています。LGBTQ+は思春期に自認することが多く、子どもがある時から当事者となる可能性もあるのです。

また、子どもを持つ親を対象に行った「自分の子どもが当事者だったら?」という質問については、「自分の子どもがLGBTQ+であったとしても、愛をもって接したいと思う」と回答したのは、非当事者の子どもを持つ親が83.8%だったのに対し、当事者の親は66.8%と、意識の差があります。右のグラフのように、当事者の親もさまざまな思いを抱えています。

LGBTQ+当事者の子どもを持つ親の意識



出典：電通グループ「LGBTQ+調査2023」